

[報告事例]

県内の入浴施設に理解いただき、「オストメイトの入浴マナー研修会と温泉入浴体験」を開催することができた。

[報告内容]

日本オストミー協会鳥取県支部会員に呼びかけ、温泉入浴体験を計画した。県全域の会員を対象にしていたため、県中部の温泉施設 A に「オストメイトの入浴マナー研修会と温泉入浴体験」のお願いをしてお理解をいただき開催することができた。

[対応結果]

11名が参加し、オストメイトの入浴マナー研修会を開催した後、温泉入浴体験をすることができた。

入浴後、みんなで会食をして楽しいひと時を過ごすことができた。

入浴施設側もなるべく一般の方と交わらない時間帯を意識してくださり、初めて温泉で入浴する会員の負担を減らすことができたと思う。

これは入浴経験がないオストメイトの為に公衆浴場や温泉施設でのオストメイトの入浴マナーを理解し安心して入浴ができること、そして、一般の方にオストメイトの入浴に対してご理解をいただく為にも必要なことである。会員以外のオストメイトにも広げていき、オストメイトの入浴にクレームが出ないようにする事が重要である。

[報告事例から考えてみましょう]

障害者差別解消法では、事業者は、その事業を行うに当たり、障がい者を理由として障がい者でない者と不当な差別的取扱いをすることにより、障がい者の権利利益を侵害してはならないこととしています。

オストメイト（病気や事故などにより、人工肛門・膀胱を造設した方）は、専用装具のパウチ^(注1)を装着することによって、手術前と同じように社会生活を送ることができ、公衆浴場への入浴についても、装具を必ず装着する等のルールやマナーを守れば、便・尿などの排泄物が漏れたりすることはなく、衛生上の問題はありませ

ん。障がいについて正しく理解し、誰もが地域社会の中で自分らしく安心して生活できる暮らしやすい社会の実現を目指しましょう。

(注1) パウチ：オストメイトが腹部から出る排泄物を溜めるために腹部に貼る袋

※鳥取県では、誰もがいつでも心配することなく外出できるようバリアフリートイレやスロープなどの施設のバリアフリーに関する情報を提供する電子地図「とっとり UD マップ」を運用していますので、こちらもぜひご活用ください。

とっとり UD マップ URL <https://tottori-udmap.elg-front.jp/udmap/>

[報告事例]

スーパーマーケットでのセルフレジの普及と見えない、見えにくい人への対応について

[報告内容]

近年セルフレジが増え、機械を操作しなければならない店舗が増えてきたため、見えない、見えにくい人にとっては、買い物を躊躇したり、機械を扱わなくてもよい店を選んでしまう現状がある。

そこで、県内西部のスーパーマーケット4社に「セルフレジが普及している中で、機械の操作が難しい見えない、見えにくい人は障害者差別解消法の観点からどのような合理的配慮を受けることができるのか」と尋ねたところ、3社が「困りごとがあれば対応する」、1社が「全てのレジの内、1レーンだけスローレジ（すべて人が対応）を設置しており、その表示は上にある」との回答だった。

スローレジを設置しているスーパーマーケットに対し、「視覚障がい者は表示が上にあっても分からないため、床に他のレーンとの違いが分かるように大きく書いてほしい」と申し入れた。

[対応結果]

1年後、スローレジを設置しているスーパーマーケットへ行くと、スローレジの手前に大きく案内が書いてあった。

[報告事例から考えてみましょう]

障害者差別解消法では、障がい者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障がい者の権利利益を侵害することとならないよう、社会的障壁の除去の実施について、必要かつ合理的な配慮を行うことを求めています。

また、合理的配慮は具体的場面や状況に応じて異なるため、事業者においては、事務・事業への影響の程度等の要素を考慮した上で、具体的場面や状況に応じて柔軟に対応することが期待されています。対応の負担が重すぎる場合でも、その理由を説明し、代替措置の提案も含め、建設的な対話により理解を得るよう努めることが大切です。